日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２８期・１０巻　　２０２３年　　１月号　　NO. 257

仲間と仲間を結ぶ機関誌

れいほう

Susono Reihou Alpine Club

雪の記憶

山行ＮＯ．２００２
２０２２．１１．２７
富士山・宝永山

あけましておめでとうございます　2023・元旦

２０２３年度・０１月度例会資料　　２０２３・０１・０７

報告・当面の予定

１１月１７日（木）個＝呼子～越前　１＋１・・・テレビ朝日取材ガイド

　　１９日（土）個＝富士山・宝永山　１

　　２０日（日）県＝満観峰（ベルクシュタット安全登山講習会）・・・雨中止

　　２２日（火）個＝富士山・二ッ塚　２

　　２６日（土）会＝御正体山・・・雨中止

　　２７日（日）会＝富士山・宝永山（雪上訓練）４＋１（一名途中下山）・・・雪はまあまあ

１２月０３日（土）会＝滝子山～大谷ヶ丸　８名・・・大谷ヶ丸で転倒事故・ヘリ搬送

　　１０日（土）会＝富士山・吉田口　５名

　　１７日（土）会＝発端丈山（忘年山行）９名・・・鍋・大仁温泉・懇親会

　　１８日（日）個＝沼津 ALPS　１＋１・・・原木から、Ｈちゃんと本当の忘年山行

３．寄贈会報とピックアップ

「あしたか」　沼津勤労者山岳会　　１２月号　　NO.表記ナシ　　P10　　電子版

予定・計画・報告＝魂ノ山～棚場山、御正体山、赤岳。登山技術講習会（雨天のため長田生涯学習センターで実施）＝ハイキング中のセルフレスキュー実践、安全登山講習会、ほか

「あさぎり」　あさぎり山の会　　１２月号　　NO.350　　P45　　電子版

報告＝水ノ塔山・篭ノ登山、越前岳・遭対訓練、長尾山・弓射塚（自然保護デー）、松姫峠～カヤノ尾山、富士山・新大宮口、甲斐駒、丹波天平、きらめ樹（皮むき間伐）のこと、計画、掲示板、ほか

「山梨山の会会報」　山梨山の会　　１２月号　　NO,307　　P19　　電子版

報告＝座学「山道具のメンテナンス」報告＝第５回公開ハイキング・竜ヶ岳３６名、奥飛騨＝蓋山・福地（ふくじ）山、第１８回・全登研報告、西上州・毛無山、麦草峠、富士山・村山古道、大栃山、御嶽古道上道～外道（下道）、京都一周トレイル踏破、計画＝石割山、帯那山、公開スキー教室、会報えつらん＝当会が紹介された

「ハイキングだより」　新潟・みちぐさハイキングクラブ　　NO.339　　P8　　電子版

報告＝水沢山、HC ラッセル講習会＝長岡市・三ノ峠、新春山行・大力山、お茶ルーム、埼玉支部企画＝外秩父・仙元山（埼玉支部あり？）個人山行、理事会、例会、今後の予定。

山行ブログ・・・ https://mitigusahc.fc2.net/

「竜爪ミニ」　静岡勤労者山岳会　12 月号　　電子版

報告＝山行管理、青崩れ峠、トンネル工事見学、山梨・雨乞山

「三島労山事務局ニュース」　NO.515　　12/13　　電子版

山行報告集ブログ、報告＝11/9　仙丈岳の下山中に転倒し重症。救助隊によて搬送。現在は、沼津市内の病院に入院中。無届山行のため、基金申請ができない。この点についても会員に注意喚起を促す。

当面の行事・山行予定（原則、定例ハイクは、毎月、巡礼・富士山ウオーク週がある土曜日です。諸般の事情で、予定変更あります）

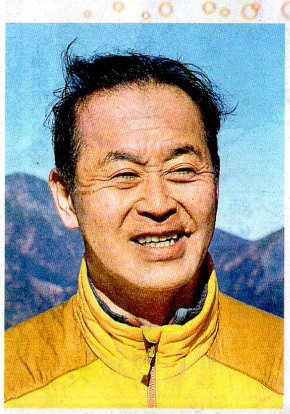
日	曜	２月	日	曜	１２月	日	曜	１月
1	水		1	木		1	日	元日
2	木		2	金		2	月	
3	金	定例アルパイン	3	土		3	火	
4	土	〃　　八ッ・硫黄岳	4	日		4	水	Ｉ＝誕生日
5	日		5	月		5	木	7～9 加藤・日赤
6	月	Ｗ＝誕生日	6	火		6	金	救急講習会
7	火		7	水	富士山ウオーク	7	土	初登山（電車で行く山）
8	水	伊豆巡礼	8	木		8	日	金時山（新柴）
9	木		9	金	冬山訓練（済）	9	月	成人の日
10	金		10	土	富士山・吉田口	10	火	
11	土	定例ハイキング	11	日		11	水	伊豆巡礼
12	日		12	月		12	木	
13	月		13	火		13	金	
14	火		14	水	伊豆巡礼	14	土	
15	水		15	木		15	日	県連交流ハイク・徳倉山
16	木		16	金		16	月	
17	金	定例アルパイン	17	土	忘年山行・発端丈山	17	火	Ｋ＝誕生日
18	土	〃　　八ッ・横岳	18	日	（済）	18	水	
19	日		19	月		19	木	
20	月		20	火		20	金	アルパイン（雪山）
21	火	22 日＝Ｇ誕生日	21	水		21	土	八ヶ岳
22	水	伊豆ウオーキング	22	木		22	日	第 5 回理事会
23	木		23	金		23	月	
24	金		24	土	クリスマス・イブ	24	火	
25	土	定例ハイキング	25	日		25	水	伊豆ウオーク
26	日		26	月		26	木	↑恋人岬～土肥（土肥桜）
27	月		27	火		27	金	
28	火		28	水		28	土	定例ハイク
			29	木	冬山合宿	29	日	
			30	金	金峰山	30	月	
			31	土		31	火	

切り抜き帳　静岡新聞から転載

この人

南アルプスみらい財団　専務理事兼事務局長

田島（たじま）　章次（しょうじ）さん　（静岡市葵区）



財団は静岡県の出資を受けて8月に設立された。県くらし・環境部理事（南アルプス地域連携担当）からの転身。企画総務課長を兼ねて自ら山岳現場を巡っている。静岡市出身。62歳。

―設立の狙いは。

「ユネスコエコパークに登録された南アルプスは、氷河期からの遺存種など希少な動植物が息づく場所で、ライチョウなど世界の南限となる生き物もいる。エコパーク憲章は、この地域資源を共有財産として未来に受け継ぐため、持続可能な利活用に取り組み、自然の営みを生かした魅力ある地域づくりをうたう。その精神を踏まえ、保全と活用を図る協力の輪を広げていきたい」

―なぜ今、南アルプス。

「南アルプスの高山植物は、高山帯に進出してきたシカの食害で生息が脅かされている。人が関与しなければ、保全ができない状態になっていると言える。利活用で人が立ち入ることになれば、開発行為によって生息環境が変化しないか、しっかりと見守る必要がある」

―財団の活動内容は。

「財団は、科学的知見に基づいて自然環境の保全や利活用を進める県の仕組み『南アルプスモデル』を具現化する実行部隊の位置づけ。柱は、自然環境の見守り、保全活動の促進、知っていただく、来ていただくの四つ。具体的には、研究者や山岳関係者との情報交換や登山道の巡回、情報発信など。出前講座なども考えている」

―現場を歩いた感想は。

「山小屋の皆さんの話を聞くと、やはり課題はアクセス。山に遮られ静岡側からは直接見にくいこともマイナス。関心を高める努力が不可欠。縦走登山客を考えると、隣接の長野・山梨県との連携も必要」

（編集委員・築地茂）

12/14

四季折々の南アルプス収録

県、杏林堂と協働　カレンダー制作

南アルプスの季節ごとの風景写真を収めたカレンダー＝12月上旬、県庁

県は杏林堂薬局（浜松市中区）と協働し、このほど、南アルプスの風景写真を収めた2023年のカレンダーを制作した。定価550円（税込み）で販売し、収益全額を県の「南アルプス環境保全基金」に寄付する。

「南アルプスを未来につなぐ会」理事でインスタグラマーの松嶋彩さんと、山岳写真家の後藤太介さんが21年秋から1年かけて季節の風景を撮影した。

赤石岳の麓から富士山と白峰南陵を望む写真や、前岳の斜面にある高山植物の群生地「お花畑」を捉えた写真など、南アルプスの貴重な自然環境が伝わる13枚を収録。県自然保護課監修の解説コラムを添えた。

A4判14ページ。杏林堂店舗と同社のインターネットショップで扱っている。同社は南アルプスの環境保全活動に取り組んでいる。

12/15

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上弘二郎　　写真・後藤
山行番	NO 2002
日　時	2022 年 11 月 27 日（日）晴れのち、涼しい
山　域	富士山・宝永山 2352m峰～宝永山（2693m）
コース	長泉 5:00（後藤、山田）-健康センター5:05（河野）-竹沢種店前 5:10（井上）-水ヶ塚公園駐車場（加藤）-駐車場スタート 6:17-水ヶ塚登山道ー御殿庭（下）7:51-御殿庭（中）8:19-2352m峰 8:50-宝永山 11:00-宝永第一火口底（昼食）11:48～12:17 下山開始-往路下山-水ヶ塚公園駐車場着 14:40-長泉
標高差	水ヶ塚約 1448m～新六合分岐約 2470m＝約 1022m 第一火口底約 2420m～分岐 2710m（宝永山 2693m）＝約 290m 宝永山登り返し=17m、第一火口登り返し＝40m　　合計＝約 1369m
藪漕度	上り・下り　なし
難易度	非常に困難　困難　レやや困難　普通　やや易しい　易しい
宝永山で今シーズン初の雪山	
参加者	後藤、加藤、山田敬三、河野（標高約 2000m で下山）、井上＝5 名

夜明けが遅くなり、集合時間の朝 5 時は星が輝いている。天気は良さそうだ。御殿場から周遊道に入ると徐々に東の空が赤くなる。

水ヶ塚からは、富士山の近くにいることと、富士山が朝日を浴びて表面の凸凹が明確になったためかより立体的に浮び上がって見える。

今回は水ヶ塚公園からまっすぐに宝永火口の方へ登る須山口「登山」歩道。私には初めてのコース。今年少し前に、同じく水ヶ塚からスタートした時は、一度須山口下山歩道に合流してから幕岩、三辻、小天狗塚を経由して御殿庭上の宝永第三火口に出るルートだった。

朝の富士山

水ヶ塚から宝永までの直登は初めてだ。須山口「下山」歩道ルートは道や景色に変化があるが、須山口「登山」歩道は傾斜が一定で景色も変化がなく単調で退屈に感じる。

しかし効率よく短時間で一気に登ることができる。きつい傾斜が絶え間なく続くので休む時がなく精神的にきつく感じる。

今回は雪山装備のためアイゼン、ピッケルがザックに入り荷物が重い。やっぱり大汗をかいた。途中の一服で、頭の汗を払ったら朝日にキラキラと輝いて面白かったようで、加藤さんから「もう一回やって」何度もリクエストされた。

河野さんが徐々にバテてきた。8:03、標高約 2000m でギブアップ。下山しバスで帰ることとなった。

宝永山 2352m 峰

森林限界を超えると地面は歩きにくい火山礫になり、宝永第三火口の西側、2352m 峰の南側に出る。2352m 峰からは少しだけ緩やかになるが第二火口から 2460m の第一火口の縁までは約 100m再びきつい傾斜が戻ってくる。

空気も薄くなるので、大体いつもこのあたりで苦しい。第一火口縁でアイゼンを装着し、ピッケルを持つ。山田さんはアイゼン、ピッケル初体験であった。山田さんの前から後藤さんが、後ろから加藤さんがアイゼンとピッケルの使い方を指導する。

超ベテラン 2 人が前後から指導するので抜かりはない。第一火口底は 2420m で 40m 下り、宝永山の稜線の分岐は 2710m で 290m 登る。17m 下って宝永山頂上が 2693m。

宝永山第一火口

宝永火口底から稜線までの 290m。見た目はシンプルな光景で楽そうだが、なかなか手強い。登り始めると猛烈に暑く、次々と服を脱いだ。

右手を見ると雪面に太陽の光が照り返し、まるで海面に反射する太陽の光のよう。稜線にたどり着くと、今度は強風に襲われた。急いで防寒のためにカッパやニット帽を身に付ける。火口の縁から宝永山までは、雪の白い道が浮かび上がっているようだ。

下界は雲海に覆われている。御殿場口側の少し上の方に数名がいて雪上訓練をしていた。稜線の東側はきれいな雪庇が続く。稜線を緩やかに下ると、先端が宝永山山頂だ。

山頂には、大きな大理石の方位盤がある。周囲の杭とロープにはエビのしっぽの氷ができていた。

歩き始めて約 5 時間たち、しっかりおなかがすき、宝永山はさっさと下山。下山開始してすぐにホワイトアウト。足元は見えるので踏み跡で道をそれることはない。火口底までの道中では、次々と登山者が登ってくる。

ほとんどが簡易なアイゼンをつけていた。その中に、先週同じ場所で出会った富士市の 56 歳の人と再会した。実は、宝永山に一度も登ったことがない私は先週一人で宝永山に挑戦していた。

その時はまだ雪はなく、雲海も風もなく、二ツ塚を真上から見て感動していた。その先週の土曜日の同じ時間に宝永山に登り、次の日曜にも同じ時間、同じ場所にいたことになる。何という運命的な出会い。

素晴らしい世界

しかし、「また会いましたねー」くらいの会話を挨拶をして、すれ違っていった。いつかまた会うかもしれない。

第一火口底にあるベンチとテーブルで昼食。周囲で雲ができては消える。富士山では雲と同じ高さにいるのが楽しい。宝永山の頂上で雲がなかったのはラッキーだった。

30 分も違えば頂上も真っ白だった。昼食後、アイゼンを外し 17m の登り返し。思ったよりきつい。何より食べ過ぎて腹が苦しい。

やっと火口の縁に立つと、ようやく本日の登りが全て終わり、ほっとする。ここからはザックザクと下り、登った道を帰る。森に入ると倒木が多い。登りが単調であったように下りも単調。残り 30 分という標識のところで、加藤さんからミカンをいただき一服。

傾斜が緩くなり、水ヶ塚公園にゴール。車のワイパーには河野さんの「帰ります」メッセージがはさまれていた。富士山は雲の中だった。

山田さんの一口感想

初の雪山登山。宝永山山頂も初めて。アイゼンもピッケルも重くて難儀したが、雪の斜面と青い空と雲海はすばらしかった。最高の景色と体験だった。

宝永山方位盤（何故か斜め）

第一火口分岐

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬　　写真・後藤
山行 NO.	２００４
日　時	２０２２年１２月０３日（土）晴れ
山　域	小金沢連峰・滝子山（１５９０ｍ・寂梢尾根）～大谷ヶ丸（１６４４ｍ）
コース	長泉5:30ー桜森林公園7:20ー寂梢尾根ー滝子山11:02ー A 班・大谷ヶ丸3名、B 班・防火帯で昼食ー大谷ケ丸12:15～13:20(昼食)下山開始ー事故13:57～ヘリピックアップ15:27ー山田車鍵届けるーコンドウ丸14:14ー曲り沢峠14:27ー桜森林公園16:26ー甲府中央病院ー長泉
標高差	上り　桜森林公園約６００ｍ～滝子山１５９０ｍ＝約９９０ｍ 滝子山最低コル約１５００ｍ～大谷ヶ丸１６４４ｍ＝約１４４ｍ
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　　困難　　やや困難　　レ普通　　やや易しい　易しい
落ち葉のラッセルとカラマツの風音	
参加者	後藤、加藤、井上、勝又、合谷、伊藤ち、斎藤、山田敬＝8名

今回の山行は、前日まで大山の予定であった。しかし大山の天気があまりよくないため、大月・滝子山に変更。

地図読みの訓練も山行目的であったため、印刷した地図と YAMAP を見ながら行程をイメージ。

滝子山までは尾根を進み、帰りは沢沿いを戻るルート。ただ滝子山からあとの行程が長いからお昼を早めに済ませないと、下山が暗くなるだろうなと想定。

似たモノ同士

桜森林公園に車を停めて、7 時 20 分出発。大鹿川をすぐに右に入り、尾根に入る。少し

紅葉が見られるかと期待したが、赤や黄色の葉は見当たらず。赤いのは私のシャツの色くらいだ。代わりに茶色い落ち葉が山道に積もっている。

落ち葉を踏みしめる音とともに登り始める。サクッサクッという音も晩秋を感じさせて良い。が、結構落ち葉の量が多いので、滑る。落ち葉には油分があるそうで、それが潤滑油となって滑る原因になるようだ。

転ばないように注意して少し登ると鉄塔が立って開けたところに出る。歩き出して暑くなったので、皆、上着を脱いで登りやすい格好に着替える。その時、後から来た見事なアフロヘアの方と出会う。すごい頭だねと皆がその人に集まり、アフロに触らせてもらう。落ち葉よりふかふかだ。気さくな方で我が山の会のアフロ隊長、加藤さんとも気軽に記念撮影に応じてくれた。あとで YAMAP を見たら、彼も YAMAP ユーザーで彼の山行の記録写真の中に加藤さんとの 2 ショットも入っていた。

素晴らしい尾根

落ち葉の道を登って１０００ｍを超えてくるあたりから、木々も少なくなり足元は岩場に。振返ると富士山が見える。やや雲にかかって、全景は拝めなかったが、少しでも見えるとありがたい。岩場は玄武岩なのか安山岩なのかわからないが、比較的大きな岩が積み重なっている。

私はこういう岩場は足の長さを生かして一気に登りたいタイプなので、スピードが上がる。しかし、小柄な方だと難所である。所々ペースを合わせながら、進む。

岩場

しばらく寂梢尾根の岩場が続き、やっと登り切ったと思ったところで右手に折れる。ここから東向きにアップダウンを経て、滝子山山頂を目指す。

この向きだと北風と南風を左右から受ける。左手から来る北風は冷たく、時折、右手から吹いてくる南風は、陽の暖かさがある。利き酒ならぬ「利き風」体験で、やっぱり北風って冷たいなぁと当たり前を体験学習する。

11 時、滝子山山頂到着。地味な山だと勝手に思っていたが、結構、いろんな人が登ってくる。後藤さんに聞いたら、中央線の笹子駅から登山口から近いから、東京方面からも電車で来やすいそうだ。確かに都会風の若い人が多かった。

ここでお昼かなと思ったら後藤さんが、井上さんと私はこの先の大谷ヶ丸まで行って、そこで昼食にしたらと提案。少し大回りして、途中で皆と合流するルートだ。先週、宝永山で雪山訓練をしたので、感覚的にはまだいける。じゃあ行きますかと、大谷ヶ丸をめざす。

道中のカラマツの自然林の景色が青い空に映えてきれいだった。ここまで来る人は少ないのか、一帯は私と井上さんの落ち葉を踏む音だけ。この静寂も贅沢だ。そんなことを感じながら歩いていると、後ろからガッサガッサと、人が近づく音が。振り返ると後藤さんが「おーい」とやってきていた。

ということで、後藤さん合流で、3 人で大谷ケ丸を目指し、12 時 15 分到着。加藤さんの

京都のお土産「にごり酒・さがの」や、おでん料理をいただき、後藤さん差し入れの焼き鳥のハツを井上さんがコンロで焼いてくれて、おつまみに一杯。最高にうまい！とはいえ、他メンバーの行程を考えると大回りしている分、そんなにゆっくりしてはいられない。

大谷ヶ丸

　下山開始。コンドウ丸手前で後藤さんが転倒。頸椎を痛め、両腕にモーレツな痛み・シビレを負った。結果的に、日没が遠くなく、頭部負傷の緊急性があり、苦渋の決断でヘリ救助を１１９番にＩが依頼。

救助状況（Ｉの報告と写真）

13:57　転倒

14:23　コンドウ丸頂上で 119 番通報。両手両腕にテーピング。鎮痛剤を 2 錠目、3 錠目飲むが効かない。その後、携帯電話が完全に圏外になり救助が来るかどうか不明のため自力で下ることにした。

15:14　曲り沢峠でまで下山したところで、ヘリがコンドウ丸上空に到着

15:19　救助員がヘリから下降し現場到着

15:27　後藤さんがヘリに上げられる。山梨県県立中央病院に搬送すると伝えられた。後藤さんのザックは救助員の一人が背負いヘリで運搬。ストックは持って下山してくれとのことだった。

後藤報告

16:00　過去、３回仲間のへり救助は経験したが、自身は初めて。ヘリから降りて来た、山梨県消防防災航空隊の若い奈良さんにテキパキ指示される。

「腕だけは絶対離さないでください」と言われピックアップ。ワイヤー一本の空中遊泳はスリリングだった。目を転じると甲斐駒がイヤに尖がっていた。これは現実か。夢なら覚めて欲しかった。

数分で山梨県立中央病院ヘリポート着。腕のシビレは酷かった。車椅子で運ばれ緊急入院。各検査を行った。結果、頸椎圧迫を確認。ただ、緊急手術は不要だった。翌々日、退院。地元病院で継続加療。年末、手術入院予定。

今回、山梨の方には、病院でも随分お世話になった。皆さん優しくイイ方だった。今まで悪口を言って、ゴメンナサイ。（笑）

ピックアップ準備

山梨県消防防災航空隊ヘリ

私は車の鍵Ｂ班に届ける任務で一人下山。を曲り沢峠を下るが、落ち葉ラッセルの急な下りなので、つるつる滑って非常に危険。九十九折りのルートになっているが、途中、一度滑り落ちてしまった（その分、ショートカットで下れたから結果的にはよかった）。

靴のエッジも効かせられないし、なかなか難儀した。予定ルートのすみ沢に降りてからは、だらだら坂をくだる感じなので、ひたすら降りる。結局、加藤さんチームとは、途中合流できず、1 時間遅れで到着となった。

今回は行程だけでなく、いろいろなバリエーションのある山行でした。

落ち葉の山

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬　　写真・後藤
山 No.	2004
日　時	2022 年 12 月 9 日・10 日（金・土）晴れ
山　域	富士山・佐藤小屋（最高到達点２２４７ｍ）
コース	12/09　長泉１４：３０ー馬返駐車場１６：００ーテント設営（テント泊） 12/10　馬返し出発６：３７ー佐藤小屋９：４２ー佐藤小屋近くで昼食１０：３９ ー下山開始ー１１：０４ー馬返し駐車場１３：０７ー長泉１５：００
標高差	上り・下り　馬返駐車場１４３７ｍ～最高点２２４７ｍ＝８１０ｍ
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　　困難　　やや困難　　レ普通　　やや易しい　　易しい
冬山訓練と初テン泊	
参加者	加藤、星、井上、勝又、山田敬＝５名

年末の冬山合宿に向けての、冬山訓練の山行。訓練対象は、冬山初体験の私（山田）だ。加藤さんはじめ山の会の仲間が付き合ってくれた。ありがたい。

冬山に加えて、私はテント泊も初めて。ギア類もそろえなければならない。12 月 7 日にカモシカスポーツ本店へ。東京に行ったついでに、**山野井泰史氏のドキュメンタリー映画「人生クライマー　山野井泰史と垂直の世界　完全版」**を鑑賞。

すごい人を観て、テンションが上がった状態で、雪山仕様の登山靴、アイゼン、ピッケルなどを購入。寝袋も購入。どれも高すぎて想定予算を垂直に突き抜け、金銭感覚がぶっ壊れた。（笑）

鍋がイイ

それらの初物を持参してテン泊予定の駐車場へ。テントを張る駐車場はすでに寒い。ダウンを着こまないと立っていられない。

テントはあっという間に完成。食事道具や寝袋をテントに入れて、他の荷物は車の中に。なるほどこうやってスペースを確保するのかと学ぶ。食事は加藤さんが朝から仕込んで、鍋の材料一式とごはん、漬物、茹でブロッコリーやカリフラワーなどを用意してくれた。

私は自分の食器にできた料理をよそって食べるだけ。至れり尽くせり。(加藤さん、訓練場所探しから食材調達、料理までありがとうございました。) 感謝。おいしかった！鍋を囲んで、星さんや勝又さん、井上さんの体験談や、年末どこに行こうとか話しながら食事をするのも楽しかった。

駐車場

食事も終わり、就寝となったが、寝袋も初体験。思ったほど寒くはなかった。奮発して高性能のものを買ってよかった。朝 4 時すぎ起床。外は極寒。

冬山の朝だ。寝袋を片付けて、朝食を作りながら暖をとる。昨日の鍋の残りにご飯を入れて雑炊に。２、３杯おかわりして、お腹の補充は OK。テントをたたんで、出発準備。周りを見ると他にもいくつかテントで寝ている団体があった。昨日の夜、我々が寝てしまってから設営したと思われる。

6 時 30 分過ぎに登山開始。1 合目、2 合目、3 合目までは雪はない。順調に登っていたが、山頂の雪の様子を見ながら登っていたら、岩と丸太の土石止めの混在するところで、同行者が足をとられて転倒。ドキッとしたが、手や顔は問題なく、膝下を打撲程度だったので登山は続行。大事には至らなくてよかった。

4 合目あたりから徐々に雪が現れる。しかし、アイゼンを履くほどではない。歩いている途中に、どんどん他のパーティと出会う。神奈川の労山の方もいた。引率のベテランの方と若い人の構成で、すごい量の荷物で登っている。

聞くと冬山訓練で、上の方で滑落訓練をするらしい。それをやりぬけた人だけが冬山に行っていいというルールにしているとのこと。冬山の厳しさを感じた。

9 時 50 分ごろ、5 合目の佐藤小屋に到着。しかし、期待したほど雪量はなかった。寒い。とりあえず小屋に入って、おしるこやコーヒーをいただいて、暖をとる。皆で話し合って、これ以上登ってもあまり雪の状態は変わらないようなので、アイゼンを履いて、下山する訓練をすることにした。

新しい買ったばかりのアイゼンと靴なので嬉しい。前回の訓練時より軽くて歩きやすい。しかし、アイゼンの調整が靴に合っていないとか（靴に合わせてセッティングしてもらったはずなのに、、、）、スパッツが雪山用でないとか、課題点が見つかった。雪と岩場の混在したところや、凍っている坂道の下り方がむずかしく、怖かったが、多少体験できたので、恐怖心は軽減した。

佐藤小屋下で昼食をとり、しばらくアイゼン歩行をしたが、雪も少なく、岩場が多かったので、アイゼンの歯を痛めるので、アイゼンを外す。あとは一気に下山。富士山頂をめざす大荷物の若者たちとたくさんすれ違う。すごい人たちがいるなあと思いながら下って、13 時には駐車場に到着した。

今回は冬山訓練だったが、未体験のテン泊と、靴やアイゼン、グローブの着脱など新装備の試用ができて、よい体験になった。また買い足したいものが出てきた。投資額がえらいことになっているが安全と新体験には変えがたい。ますます早く雪山に行きたくなった。

氷道

下山

写真報告　　忘年山行　　12/17（土）　　発端丈山　9 名

富士山少しだけ

K 講師の指導で三角巾使い方を学ぶ

K 嬢が富士山で採取・仕込んだ、キノコ鍋をいただいた

皆さんの今年の感想・・・

合谷・・・今年は肩を痛めて手術をして、ずっと療養をしていて、最近やっと山に行けるようになった。厄年だったかもしれない笑。来年はもう少し山に行けるようにがんばりたい。

斎藤・・・自分の能力以上の山に連れて行ってもらって、結構大変で辛かったんですけど、必死でついていくのが精いっぱいで、皆さんにご迷惑をおかけたんじゃないかと、申し訳なく思っています。これ以上能力が上がることはないと思うので、来年もご迷惑をおかけするかもしれませんが、来年もよろしくお願いします。

伊藤・・・・私はとにかく行けるときは声がかかったらほとんど行ってました。最初は月に２回って、自分が去年言った目標を忘れていたんですけど、まあそれは達成できました。そんな１年でした。

星・・・・私は今回の参加を入れて２回目です。（来年の目標とかは？）ちょっと考えさせてください笑。

加藤・・・私はないです！

勝又・・・今年は記憶に残る山に行っていない。来年は行きたい。（どんな山ですか？）めちゃきついところとか笑。あまり高い山に行ってないし。そんなところです。

山田敬・・私は登山を始めた年だったので、すべてが新鮮でした。特に記憶にあるのが、長かった鞍掛山と冬山訓練で登った宝永山です。山の仲間と知り合えたのもよかったです。ありがとうございました。

井上・・・雪山は、蓼科・西天狗単独・権現岳・富士山スキーと充実。アルパインは、鞍掛山・阿弥陀南稜・金峰山と過去最高の山だった。、来年もイイ山を続けたい。　（編者代弁）

後藤・・・前代未聞の「大トリ」を噛ましました。山は、最後の最後まで気を抜くな。初心に帰って捲土重来です。八十歳までヤルぞ～。

山々に感謝・バンザイ。今年も、ありがとう。皆さん、いいお顔！！！

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
長泉裾野・麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）

会報「れいほう」
2022/12/19
第 28 期・10 巻　　2023/1 月号　　NO.257
連絡先 静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12 徳山荘
090-8956-9990 055-986-6075

HP　http://susono-reihou.babyblue.jp/
Mail　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp

山は果てしない人生だ！！